資料3－2

未　定　稿

第６回三重県地方創生会議概要

1　開催状況

○日　　時：平成 30 年６月 14 日（木）15:15～17:15

○場　　所：ＪＡ三重ビル本館５階　大会議室

○出席委員：朝尾　高明　　三重県森林組合連合会　代表理事会長

池村　均　　三重県農業協同組合中央会　専務理事

石阪　督規　　埼玉大学　教授

伊藤　理恵　　特定非営利活動法人マザーズライフサポーター　理事長

吉仲　繁樹　　三重県商工会議所連合会　専務理事（三重県商工会議所連合会　会長代理）

笠井　瑞穂　　三重県商工会連合会　女性部連合会　会長

金森　美智子　日本労働組合総連合会三重県連合会　副会長

駒田　美弘　　三重大学　学長

下角　圭司　　三重労働局長

菅谷　龍太　　地域で頑張る企業・ＮＰＯを“つたえ”“つなげる”学生レポーター「ガクレポ」

杉浦　礼子　　名古屋学院大学　准教授

竹上　真人　　三重県市長会　監事（松阪市長）（三重県市長会　会長（伊勢市長）代理）

須田　俊明　　日本放送協会　津放送局　局長

谷口　友見　　三重県町村会　会長（大紀町長）

服部　弘　　三重県漁業協同組合連合会　常務理事

村田　典子　　三重県中小企業団体中央会　三重県中小企業レディース中央会　副会長

鈴木　英敬　　三重県知事

2　意見交換

○必ず人口は減っていく。どのレベルまでの人口減に抑えられたら合格点なのかを設定する必要がある。効果的な施策の結果、合格点を達成すれば県の責任は果たせているのかと思う。

○費用がかからず、知恵と工夫で行えて効果が出る施策や費用対効果の面で効果の高い施策を次々に取り入れていくことが必要。この指標を実現するために効果的なのはこの施策であるというように、どんどんスクラップアンドビルドしていかないといけない。

○多様性を受け入れられる文化をいかに行政が整えるかだと思う。施設の整備だ

けでなく、住民の様々なニーズに応えられる文化を提供できるといった、文化の土壌をつくる必要がある。

○自然減対策について、様々な施策があるものの、施策を用意したからすぐに効果がでる訳ではなく、相手は人の心であるため、長い目で見ることが必要。

○三重県は子どもを育てるのに適した環境だと考える。しかし、若者の価値観が多様化している。若者にとっては住みにくいのかもしれない。

○子育てをしにくいと考える母親が多い。施策が多くあっても、例えば保育所が多いことが子育てのしやすさと直結しない。子どもがいることの価値と経済活動を結びつけ、「産んでくれてありがとう」と女性が感謝されるような社会づくりが必要。

○どの地域も地方創生に必死で取り組んでおり、人口減少に対しありとあらゆる手段を講じている。若者や子育て世代が都会と比べて明確に暮らしやすい、子育てしやすいと明確に意識してもらえるような取組が必要。

○東京には多様性があり、質、量ともに多くの企業があることから可能性があり、排他的でなく寛容性がある。これらが地方から若者を東京に惹きつけており、行政として制度が整っていても三重県としてこれらを担保することが若者定着に必要と考える。

○キャリア教育について、大学と高校のインターンシップが繋がる仕組みが必要。小中学生については、郷土愛を育む。キャリア教育、インターンシップと繋ぎ、県外に転出しても将来的に帰ってきてくれるようにする。

○キャリア教育が始まって久しく、学生の地域への愛着は強い。ライフプランに対する考え方も変わってきている。職業選択の際、学生たちはワークライフバランスについても重視していると感じる。

○三重県の大学の収容力が低いため、量的だけでなく質的にも県内の他の高等教育機関と連携して魅力をアップできるような連携を図りたい。

○愛知県の大学において、圧倒的に愛知県の企業による学生に対するインターンシップの押しが強い。三重県の企業にも頑張っていただければ、と思う。

○三重県の学生は自己成長や社会貢献を考える学生が少ないと感じる。大手就職サイトは東京や大阪の企業が多く、三重県の中小企業の情報が少ない。

○三重県の企業はインターンシップを通じた学生の成長を考えているところが少なく、自分の企業を知ってもらおうという内容が中心で、これも若者の県外流出の一因になっていると思う。

○学生の県内への就職率が低い。大学として教育インターンシップを卒業要件化

するなどして、三重の企業と共同研究等により、学生に企業を知ってもらうよう取り組んでいる。

○産業支援センターや商工会議所等と協力しながら、女性がもっとアピールしつつ、あるべき企業の実現に向けてそれぞれの地域で取り組んでいくべきではないか。

○三重はいいところだが、若い人には働く場所が一番の問題。後継者不足対策として、三重県にゆかりもなく遠くに住んでいる方々に継いでいただけるようなマッチングシステムがあると良い。自分で起業すれば三重県に根付く。

○若者にずっと三重で生活してもらうためには、就労の定着が必要。不払い残業がある働き方は転出に繋がるというデータがある。労使が対話できる環境があれば、企業の魅力がついてくると思う。

○若者は働きやすさや雇用環境を重視している。魅力ある職場環境を整えていただくのと併せて、魅力的な中小企業の情報を発信していく必要がある。大都市圏の若者を対象に、積極的に移住促進と併せて就職できるような取組が必要。

○三重県で若者が再就職できる業種をアピールする必要がある。三重でスキルを活かしながら働き続けることができるような仕組みのアピールが必要。

○三重県南部の農林水産業の活性化、地域が元気を取り戻すことについて、皆様の知恵をお借りし真剣に取り組んでいきたい。

○三重県の地域それぞれに特色があり、産業も地域により多様性に富む。地域、産業に合った対策が必要。農業について、若者の就農が難しい。農業以外の部分も併せて暮らしの糧になるような施策も必要。

○林業活性化のため、行政による規制の緩和を検討してほしい。三重県にはバイオマス発電や合板工場といった需要はたくさんある。

○観光産業化の推進として、漁協、行政、民間、宮司、商工会、民宿、飲食店等で地区の振興産地協議会を組織し、交流体験事業を実施し地区の活性化に取り組んでいる。

○観光にかかわる産業が育っていない。観光を活性化させるため、そこで働く人材を育てる必要がある。人材を育て、県内のホテルや飲食店に就職する流れを作らないと、若者が更に流出する。更にサービス業にかかわる人材が不足する。サービス業や食に対する働き方改革も急務。三重県は「食」が一つの売りになる。対象を絞り、優秀な人材を育て県内に定着させるため仕掛けづくりが必要。